

0歳6カ月 ハーフバースデーをむかえたよ

ついにハーフバースデー！です。

バースデー当日は、毎月恒例の子どもの通院日でした。採血に何度か失敗してしまったとのことで、見たことがない位に大泣きしました。

子ども本人にはとんでもない日だったと思われませんが、元気いっぱい何よりです。

この頃には、自力でちょっと前に進んだり、何度もコロんと転がったりできるようになりました。

思えばちょっと一息つけるようになったのは、秋になり、生後半年すぎてからだったように思います。

ハーフバースデーはうれしいものですね。こんなにありがたくてうれしいものだということは、子どもを持って初めて知りました。

思えばこの半年は、私自身が今まで生きてきた中で最も濃密で、たくさんの人に会い、お世話になった期間でした。

今回は、離乳食初期のゴックン期についてのお話です。

子どもが入院していた頃から離乳食が楽しみでたまらなかった私は、生後5カ月に達したら、即はじめようとしていました。

市の離乳食講座にも参加しました。講義に加えておだしやヨーグルト和えの試食もあり、とても参考になりました。

しかし、主治医から「修正月齢で進めてね」と聞き、がっかり。満を持して、修正5カ月になってから、ようやく始まりました。

まずは本のカレンダー通りに、進めてみることにしました。

本を参考にしながら、ちょこちょこ店に通い、食器やエプロン、調理セットや冷凍容器を買いそろえました。インターネットでも購入しました。

5月コラムでのお洋服同様、こちらもとてもわくわくする買い物でした。店頭で毎回「いよいよ離乳食だ、うれしいな」と思っていました。

生まれてからずっと液体（母乳やミルク、薬）のみを口にしてきた子どもが、ついに固形物を口にします。感慨深いです。

いよいよ当日。小さいスプーンの先にほんのちょっぴりのつぶしがゆを口に持ってゆくといやがらずにパクリ、もぐもぐ・・・。

何ともいえない顔をしたと思ったら、口からどろ～っと出てきました。

機嫌は悪くなく、泣きもせず、これは成功です。

この頃の赤ちゃんは舌が前後にしか動かせず、食べ物を舌で押しだしてしまうのだそうです。

翌日以降、口から出たつぶしがゆをスプーンですくって口に返し、量をだんだん増やしました。

翌週からは順次、にんじん、かぼちゃ、そうめん、豆腐・・・といろんな食材を試しました。

唯一いやがった食材は、トマトでした。顔をしかめます。そういう「いかにも離乳食っぽいシーン」を見たかった私は内心大喜びしてしまいました。

翌日もトマトを口に入れると、一口目からのけぞって泣いて怒りました。以降、なだめても一向に食べず。

困りました。結局、トマトはもう何か月か経過してから出すことにして、その後、他の食材を使って離乳食は順調に続いていきました。

そのように怒って泣いてほとんど残す日もあれば、よく食べる日もありません。

泣くのは大概待たせすぎたり離乳食タイムが長かったりする時が多く、「早くミルクちょうだい！」と怒っているのがよくわかりました。

食事風景を振り返ると、大人がにぎやかにわーわー言っていて、子どもは時折ウーとかアーとか言う程度で静かなものでした。

気分を盛り上げて楽しく食べてもらおうと、おおげさにあやしなから、ほめてなだめて、取り組みました。

つかれている日はもり上げも控えめでしたが、基本的に私には楽しい時間でした。

反対に、大変だったのは調理です。

非常に手間がかかる上に、衛生面にはとても気を遣い・・・。

食べることができるかどうかの分かれ目には、どうやらでき上がりの粘度が大いに影響するようで、さらさらすぎてもどろどろすぎてもダメでした。

最初は手作りのみを食べさせたかったので、しばらくの間は全部作っていました。（数日分まとめて作り、冷凍していました。）

外出の時などにやむをえず、おそろおそろ市販品を食べさせると、喜んでぱくぱく食べたので助かりました。なめらかにつぶしてあり、食べやすかったのだと思います。

手作り志向は親側の思いであって、子ども側にとっては、便利なベビーフードやフリーズドライ、野菜の冷凍キューブ等の市販品も、手作りと組み合わせると美味しく入れた方が、食べやすさや栄養面でかえって良い面もあるのかもしれない。

後になってそう思うことがあります。

ではまた来月・・・。

最後までお読みくださり、ありがとうございました！